

はまだ こうすけ
濱田 幸介さん (木工芸／島根県松江市)



【経歴】(2023年4月現在)

- 2006年 石川県挽物轆轤技術研修所を修了後、辻英芳氏(日本工芸会会員)に師事する
- 2008年 石川県挽物轆轤技術研修所専門コースを卒業
- 2009年 工房を開設
- 2011年 日本工芸会正会員に認定される
- 2012年 島根工芸連盟理事
- 2013年 「匠の技」展(島根県立古代出雲歴史博物館)に参画

【受賞歴ほか】

- 2006年 島根県総合美術展工芸部門島根工芸連盟賞受賞
- 2007年 石川県の伝統工芸展入選
金沢城兼六園大茶会展入選
- 2008年 日本伝統工芸展初入選
- 2009年 日本伝統工芸展中国支部展入選
日本伝統工芸木竹展入選
- 2010年 国民文化祭・岡山美術展奨励賞受賞
- 2018年 日本伝統工芸中国支部展でNHK広島放送局長賞受賞(2020年も受賞)

濱田幸介氏は、日本伝統工芸展に刺激を受け、木工芸の道を志して石川県挽物轆轤技術研修所で技術を習得し、その後、辻英芳氏や川北良造氏(人間国宝)の薫陶を受け、技術を磨き、2009年に地元松江市に工房を開設した。

木工芸は、指物と挽物、削り物に大きく分けられるが、氏は、轆轤による挽物の作品を得意とし、ノミの挽き技と木目を生かした作品を制作している。

日本伝統工芸展を中心に発表し、23歳で初入選、以降入選を重ね、26歳の若さで日本工芸会正会員になり、その技術は高い評価を受けている。作風は、伝統工芸展の出品作では、盆型の盛器を得意として木目を生かした伝統的な造形を発表している。そうした古くからの生活と密着した活動であるが、焼杉材の使用や漆芸の使用など新たな展開に努めている。

一方、2013年「匠の技」展(島根県立古代出雲歴史博物館)への参画をはじめ、考古遺物の木彫作品の調査・再現等にも関わり造形の視野の拡大に励んでいる。

轆轤による木工芸は、伝統工芸の中でも地味な分野であり中国地域でも作り手は少ないが、島根の伝統的手仕事を受け継ぎ、木彫の技を後世に伝える若手作家の一人として、今後の飛躍が期待されている。

受賞の言葉

この度は身に余る輝かしい賞を頂戴致しまして誠にありがとうございます。

私は小さいころから祖父が木材を使って何かを作っているのを見て、その側で木に触れ、木の魅力、木の木目の素晴らしさを知り、木が好きになりました。

高校時代、知り合いの紹介で島根県立美術館にて開催された日本伝統工芸展を拝見し作品の凄さや、人間国宝の先生と出会い、お話をさせていただき自分もここに並べていただけるような作品を作りたいと思い、高校卒業後石川県にある研修所に入学して勉強しました。

本格的に木の仕事を始めて20年近くになりますが、知れば知るほど自然素材を扱う難しさ、大変さを感じております。

この度の受賞は、これからの制作活動の励みとなると同時に身の引き締まる思いです。この賞の名に恥じぬようこれからも精進して頑張りたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださいました関係各位の皆さま、またこのご縁をつないでくださいました皆さまに心より感謝申し上げます。



作業風景



第65回日本伝統工芸展 出展作品